カンボジア旅行について 3

髙橋　亮

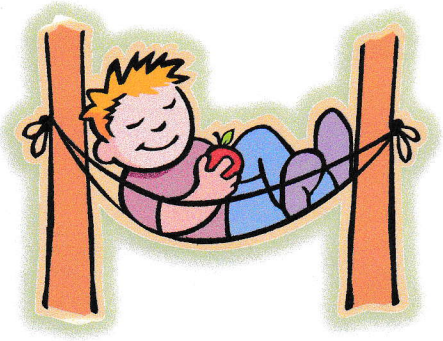
こんにちは。今回も宜しくお願いします。前回の磯津通信にも、新聞記事として紹介されていましたが、IKTTで、私達は森本さんという男性と出会いました。森本さんは京都の織物の職人だったらしいのですが、今はカンボジアに住んでいらっしゃるみたいです。カンボジアシルクという絹織物を生産しているらしく、カンボジアでは有名な人らしいです。

彼の父親は、三重県鈴鹿市の林崎の出身だそうで、同じ三重県出身の私達と、意外な接点があり、驚きました。ちなみに、カンボジアシルクは、インターネットのサイトもあるそうです。小生は、まだ見たことがないのですが・・・。IKTTは、本当に緑深い中に佇んでおり、とても平和な感じがしました。後に述べる、ポル・ポト派のいたカンボジアとは思えないほどに・・・。唯、昔は畑を掘っていたら、地雷が出てきたこともあったみたいです。

森本さんは、物静かな人でしたが、カンボジアでは有名な人らしく、国王に表彰されたこともあったそうです。初めて見たとき、

「少し、体調が悪いのかな？」

と思いましたが、どうやらそれは当たっていたようです・・・。彼は、日本に戻るつもりはないらしく、カンボジアで一生を過ごすらしいです。カンボジアにはカンボジアの魅力があり、日本には日本の魅力があるのですが、カンボジアの生命力に満ちた国柄はどことなく惹かれるものがあります。



私達が森本さんと話している間、ガイドさんと車の運転手さんは、ハンモック？みたいなものを木に架けて、休まれていたみたいです。暑い国だからかもしれませんが、仕事の間に昼寝みたいに休むことができる環境は、日本人も見習いたいものですね。

IKTTを出発した後は、地雷博物館に立ち寄りました。どうやら、萩森先生の今回の旅行の目的は、地雷博物館に募金を手渡すことにあったようです。地雷博物館については、また次回お話します。